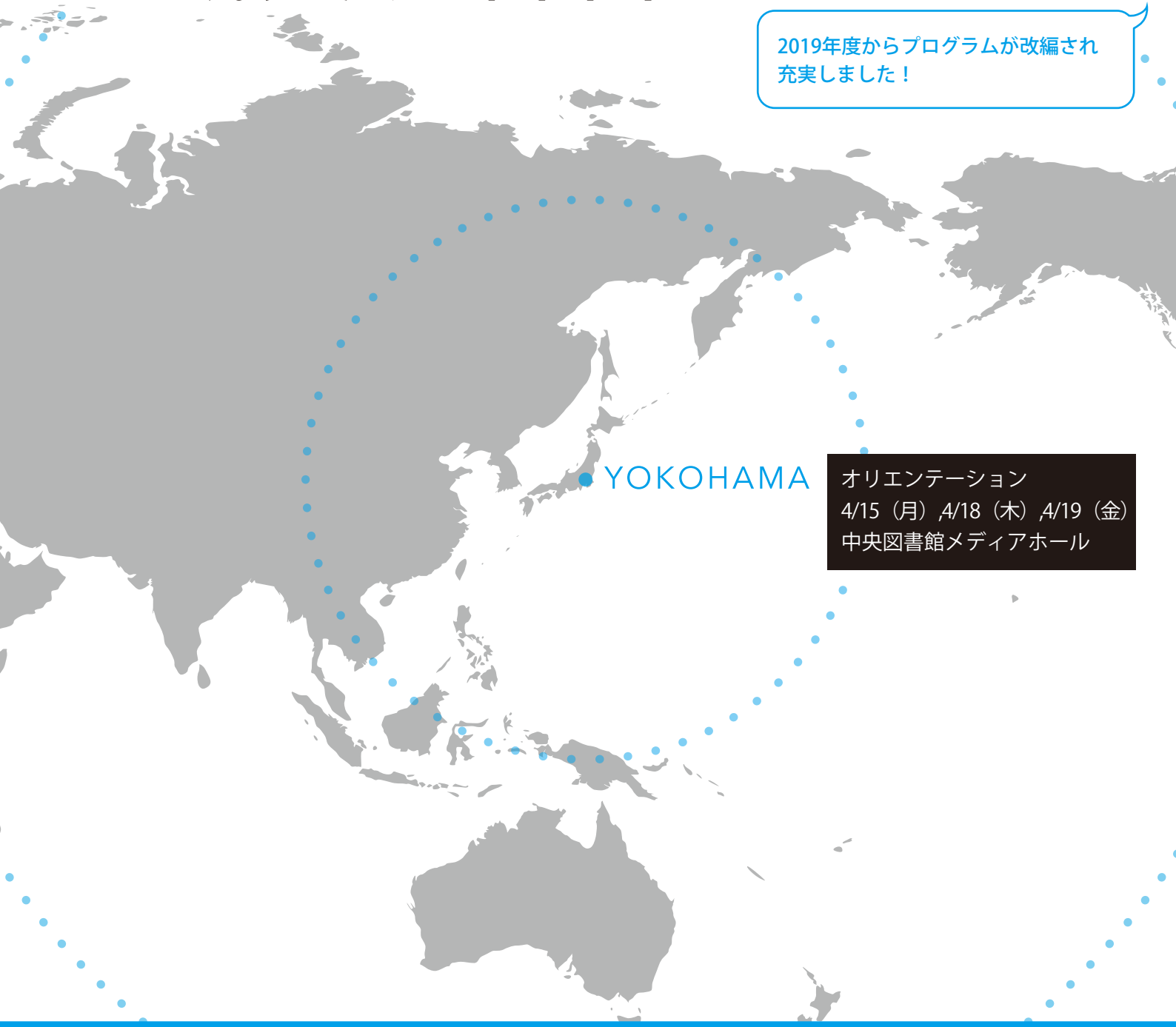
横浜国立大学 副専攻プログラム

地域交流科目 履修案内 2019

2019年度からプログラムが改編され
充実しました！



オリエンテーション
4/15（月）,4/18（木）,4/19（金）
中央図書館メディアホール

グローバルな視野をもって地域課題を解決する
先端的かつ複合的な**実践能力を身につける**プログラム

横浜国立大学　地域実践教育研究センター
YNU Global-Local Education and Research Center

『地域交流科目』の概要

グローバル化が進むなかで、実際の経済活動の場である都市・地域の活力を維持し、そこに生活する市民の生活の質をいかに高めていくかが、21 世紀初頭の課題になってきています。

このような現代的課題とニーズに対応するため、本学では、「教育学」「経済学」「経営学」「理工学」「都市科学」が連携して、各学部領域を横断して学べる副専攻プログラム「地域交流科目」を設置し、グローバルな視野をもって地域課題を解決できる先端的かつ複合的な実践能力を身につけるプログラムを設けています。

＊副専攻プログラムとは

副専攻とは、自分自身が所属する主専攻（学部）以外の分野を系統的に学習するプログラムです。

副専攻プログラムである「地域交流科目」は、「地域」に関わる知識を学部横断型で学び、地域への「交流」を踏まえながら、実践能力を身につける副専攻プログラムとなっています。

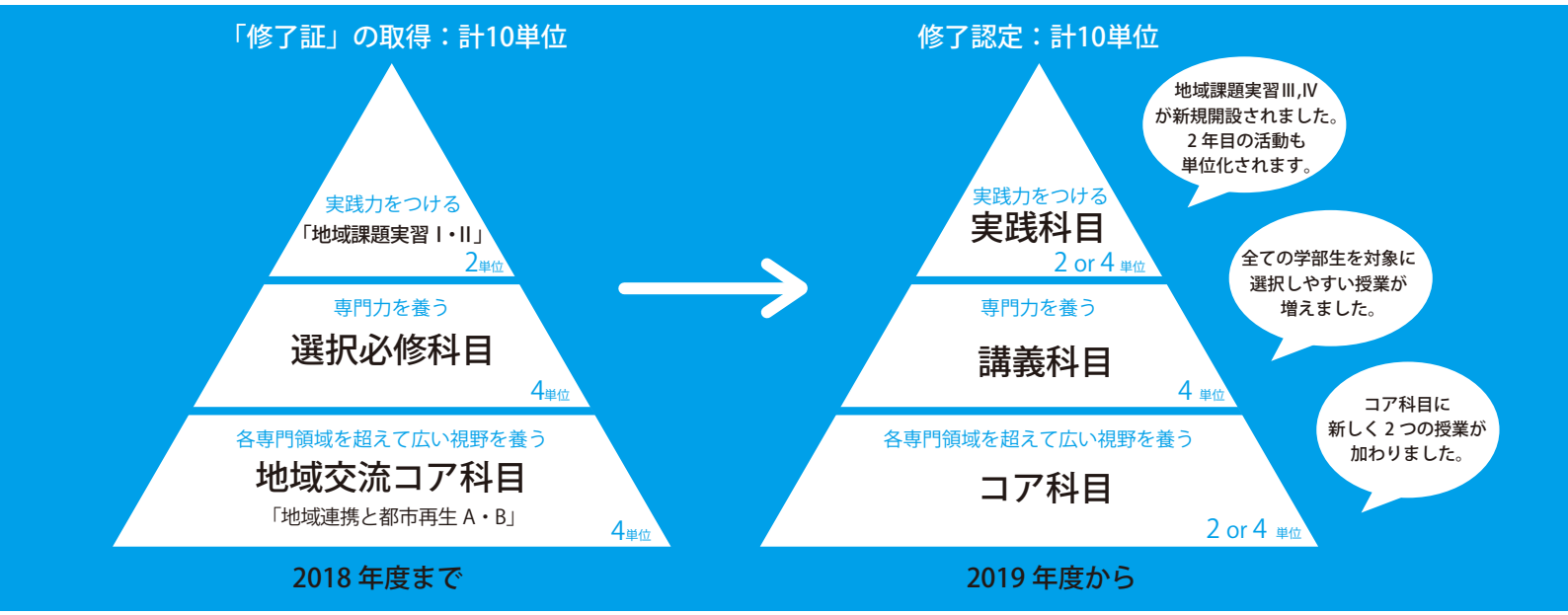
＊地域交流科目のプログラム体系

地域交流科目は、地域に関わる様々な分野を俯瞰する「コア科目」、主専攻の学びと地域をつなぐ「講義科目」、地域で活動する「実践科目」から成る科目で構成されています。所定のルールに従って 10 単位を修得すると、副専攻プログラムの修了認定を受けることができます。

修了認定は自己申請によって受けられます。修了が認定されると、修了記録として成績証明書の特記事項欄に「副専攻プログラム（地域実践）修了」と記載されます。これは、これまでの実践的な取り込みを就職や進学の際に端的にアピールするものとして効果が期待できます。

なお、2019 年度からプログラムが改訂されました。2018 年度までに履修している学生も、2019 年度からの新しい修了要件で修了申請をすることができます。

修得例：　コア科目 4 単位＋講義科目 4 単位＋実践科目 2 単位＝計 10 単位
　　コア科目 2 単位＋講義科目 4 単位＋実践科目 4 単位＝計 10 単位



＊プログラム改訂に伴い、修了要件以外の下記事項も改訂されました。

- 2018年度までは修了申請の際に「レポート」の提出が必須とされていましたが、2019年度以降に申請する場合は「レポートなし」で申請することが可能となりました。
- 2018年度までは修了認定を受けた学生には「修了証（賞状）」が授与されていましたが、2019年度からは「修了証（賞状）」の発行および授与はなくなりました。

履修・申請の流れ

「オリエンテーション」

4月15日(月),18(木),19(金) 昼休み

場所：中央図書館メディアホール

地域交流科目の説明や、
地域課題実習の各プロジェクト等の紹介があります。

教員や昨年から履修・参画している学生達からの
楽しく充実したプレゼンテーションが盛り沢山。

気になる方は、来てみてください！

「履修登録」

副専攻として履修する単位が、各学部における卒業取得要件と重なる場合は、どちらの単位としても認められます。

実践科目：「地域課題実習」を履修・参画する人へ：

地域課題実習のⅠ,Ⅱ,Ⅲ,Ⅳのいずれかを履修登録した上で、

「所属したいプロジェクト（p.5, 6 掲載）」については
下記サイトから登録申請しましょう

どのプロジェクトに所属したいか、
右のQRコード先のサイトから登録申請を
してください。

■ 申請〆切は4月19日（金）午後5時まで

・QRコード先から登録できない人は、下記サイトから
「『地域課題実習』参画プロジェクト希望用紙」を
ダウンロードして地域実践センターに提出してください。
http://http://www.chiki-ct.ynu.ac.jp/education/sanka/

検索 地域課題実習　参画プロジェクト希望用紙

地域課題実習は1年間を通じて
同じプロジェクトを
履修・参画してください。

要既読

地域課題実習を
「単位履修なしで参画したい人」も
所属したいプロジェクトの
登録申請をして下さい。

要既読

秋学期に
「地域課題実習Ⅱ orⅣ」を
履修登録し忘れないように！
忘れる人が多いです。>_<;

要既読

「地域交流科目」 計 10 単位

「地域交流科目」は、4年間をかけて、
どの科目・授業から履修しても良いです。

「修了認定」の申請

修了認定
申請書

＊修了認定は自己申請によって認定されます。

修了認定の要件：
①：コア科目　2単位以上　取得
②：講義科目
③：実践科目　2単位以上　取得
④：上記①と②の合計6単位以上
⑤：講義科目と合わせて上記①~③の合計が10単位以上
⑥：上記①~③の申請の単位計がGPA　3.0以上

＊申請には下記の2点の書面が必要です。

1:修了認定申請書

地域実践センターHPの「教育」ページの
下記or右のQRサイトから「修了認定書」を
ダウンロードしてください。

http://www.chiki-ct.ynu.ac.jp/education/syuryou-ug/

2:成績証明書

申請〆切：4/19, 11/22, 2/18*

*2月に申請する場合に、当該学期(秋学期)分が反映された成績証明書が取得できない場合は、修了認定申請書のみの申請で結構です。

修了認定は自己申請によって認定されます。
修了申請を出すタイミングは、
単位取得直後でも、就活・進学前の時期でも
OKデス。

要既読

・申請の〆切後：1ヶ月以内には認定がされます。
・提出は随時受け付けています。

＊申請先：

地域実践教育研究センター：
経済学部1号館（N4-1棟）, 406室
（教員が不在の場合は、扉のフォルダー（ポスト）内に
入れておいてください。）

「地域交流科目」一覧

●各授業の内容は、全学教育科目および各専門科目のシラバスをご確認ください。

●修了要件：「①コア科目2単位以上」、「②実践科目2単位以上」、かつコア科目と実践科目の合計が6単位以上、「③講義科目」と合わせて合計が10単位以上。①~③の申請の単位計がGPA　3.0以上。

●本副専攻の内容に相当する内容の理工学部ROUTEプログラムのプロジェクトは認定において実践科目2単位相当と位置づける。

カテゴリー	履修学部	科目名	担当	対象学年	開講期	単位	備考
コア科目	全学教育科目	地域連携と都市再生A（ヨコハマ地域学）	志村、内海	1～4年	春	2	※都市科学部生は学部共通科目として履修
		地域連携と都市再生B（かながわ地域学）	志村、池島、伊集	1～4年	秋	2	
		横浜学--地域の再発見--	安野	1～4年	春	2	H31よりカテゴリー変更
		神奈川のみらい	林田	1～4年	春	2	H31よりカテゴリー変更
講義科目	全学教育科目	建築の環境と防災	田才　他	1～4年	秋	2	※一部学科・EP履修不可
		ベンチャーから学ぶマネジメント	井上　他	1～4年	秋	2	
		現代の物流経営	松井	1～4年	秋	2	
		環境をめぐる諸問題Ⅰ	酒井　他	1～4年	第4ターム	1	
		環境をめぐる諸問題Ⅱ	松田　他	1～4年	第5ターム	1	
		グローバル化と日本人	市村	1～4年	秋	2	
		色彩論	渡辺	1～4年	春	2	
		健康スポーツ演習B	海老原	1～4年	第3ターム	2	臨海実習（9109148）
		健康スポーツ演習B	梅澤	1～4年	秋（集中）	2	スキー（9109152）
		安全・環境と社会	澁谷　他	1～4年	春	2	
		エネルギーと環境	大山	1～4年	春	2	
		海事技術史	南	1～4年	春	2	
		海洋工学と社会	海洋EP各教員	1～4年	秋	2	
		物質工学と社会	三角	1～4年	春	2	H31より新規科目
		システム・エンジニアリング	田村	1～4年	春	2	H31より新規科目
	教育学部	共生社会論ID（社会生活論）	安藤	4年	秋	2	教育人間科学部生
		共生社会論ⅡB（国際社会学）	佐藤（峰）	4年	春	2	教育人間科学部生
		グローバリゼーションと地域社会Ⅱ	佐藤（峰）	4年	秋	2	教育人間科学部生
		自然地理学	吉田	2～4年	秋	2	
		日本史概論Ⅰ	多和田	2～4年	秋	2	隔年開講
		生物学特講Ⅰ	西	2～4年	秋	2	
	経済学部	地方財政	伊集	4年	通年	4	H28以前入学生
		地方財政	伊集	2～3年	春	2	H29以降入学生
		中級地方財政	伊集	3年	秋	2	H29以降入学生
		地域経済政策	居城	4年	通年	4	H28以前入学生
		地域経済政策	居城	2～3年	春	2	H29以降入学生
		中級地域経済政策	居城	3年	秋	2	H29以降入学生
		国際環境経済論	氏川	4年	通年	4	H28以前入学生
		国際環境経済論	氏川	2～3年	春	2	H29以降入学生
		中級国際環境経済論	氏川	3年	秋	2	H29以降入学生
		現代社会福祉	相馬	4年	秋	4	H28以前入学生
		現代社会福祉	相馬	2～3年	第4ターム	2	H29以降入学生
		中級現代社会福祉	相馬	3年	第5ターム	2	H29以降入学生
		比較農業政策	池島	4年	春	4	H28以前入学生
		比較農業政策	池島	2～3年	第1ターム	2	H29以降入学生
		中級比較農業政策	池島	3年	第2ターム	2	H29以降入学生
		課題プロジェクト演習　地域経済	池島	2～4年	秋	2	H29以降入学生
		途上国経済	山崎	4年	通年	4	H28以前入学生
		途上国経済	山崎	2～3年	春	2	H29以降入学生
		中級途上国経済	山崎	3年	秋	2	H29以降入学生
		地域イノベーション政策	遠藤	2～4年	春	2	
	経営学部	産業分析（※公的規制論から変更）	貴志	3～4年	春	2	
		Operations Management	松井	3～4年	春	2	旧：生産システム論
		生態会計論	八木	2～4年	春	2	旧：生体会計論I

カテゴリー	履修学部	科目名	担当	対象学年	開講期	単位	備考
講義科目	理工学部	地域・都市計画	中村(文)	4年	集中	2	H28以前入学生
		都市基盤計画	中村(文)	4年	春	2	H28以前入学生
		交通計画	中村(文)	4年	春	2	H28以前入学生
		居住空間の計画	藤岡	4年	春	2	H28以前入学生
		屋外気候と建築環境	田中(稲)	4年	春	2	H28以前入学生
		都市と都市計画	高見沢	4年	秋	2	H28以前入学生
		建築・地域環境計画Ⅰ	佐土原	4年	秋	2	H28以前入学生
		都市生態学	佐々木	4年	秋	2	H28以前入学生
		生態リスク学	松田　他	4年	春	2	H28以前入学生
		里山生態学	小池(文)他	4年	秋	2	H28以前入学生
		環境管理学	中井, 本藤	3～4年	秋	2	
		データサイエンス	森, 田村, 長尾, 富井	3～4年	春	2	
	都市科学部	国際開発学講義	佐藤(峰)	1～4年	秋	2	H29以降入学生
		都市生態学	佐々木	1～4年	第4ターム	1	H29以降入学生
		保全生態学	佐々木	2～4年	第5ターム	1	H29以降入学生
		生態リスク学入門	松田　他	1～4年	第1ターム	1	H29以降入学生
		里地と山地の生態学Ⅰ	小池(文)他	2～4年	第4ターム	1	H29以降入学生
		里地と山地の生態学Ⅱ	酒井　他	2～4年	第5ターム	1	H29以降入学生
		都市基盤計画論	中村	1～4年	第1ターム	1	H29以降入学生
		都市計画と交通	中村	2～4年	第4ターム	1	H29以降入学生
		都市基盤解析論	中村	2～4年	春	2	H29以降入学生
		居住空間の計画Ⅰ	藤岡	2～4年	第1ターム	1	H29以降入学生
		居住空間の計画Ⅱ	藤岡	2～4年	第2ターム	1	H29以降入学生
		建築環境計画Ⅰ	田中(稲)	2～4年	第1ターム	1	H29以降入学生
		建築環境計画Ⅱ	田中(稲)	2～4年	第2ターム	1	H29以降入学生
		都市と都市計画Ⅰ	高見沢	2～4年	第4ターム	1	H29以降入学生
		都市と都市計画Ⅱ	高見沢	2～4年	第5ターム	1	H29以降入学生
		都市環境リスク共生論A	佐土原	2～4年	第4ターム	1	H29以降入学生
		都市環境リスク共生論B	佐土原	2～4年	第5ターム	1	H29以降入学生
		コミュニティ開発演習Ⅰ	佐藤(峰)	2～4年	第1ターム	1	H29以降入学生
		コミュニティ開発演習Ⅱ	佐藤(峰)	2～4年	第2ターム	1	H29以降入学生
		高齢社会とリスクA	安藤	2～4年	第4ターム	1	H29以降入学生
		高齢社会とリスクB	安藤	2～4年	第5ターム	1	H29以降入学生
		環境・エネルギーシステム論Ⅰ	鳴海	2～4年	第4ターム	1	H29以降入学生
		環境・エネルギーシステム論Ⅱ	鳴海	2～4年	第5ターム	1	H29以降入学生
		都市・地域経済学Ⅰ	遠藤	2～4年	第1ターム	1	H29以降入学生
		都市・地域経済学Ⅱ	遠藤	2～4年	第2ターム	1	H29以降入学生
実践科目	全学教育科目	地域課題実習Ⅰ	志村　他	1～4年	春	1	
		地域課題実習Ⅱ	志村　他	1～4年	秋	1	
		地域課題実習Ⅲ	志村　他	2～4年	春	1	H31より新規科目
		地域課題実習Ⅳ	志村　他	2～4年	秋	1	H31より新規科目
		実践地域と起業	林田　井出	1～4年	第3ターム	2	H31よりカテゴリー変更
	教育学部	学外活動・学外学習Ⅰ	島田	1～4年	春・秋	2	H31よりカテゴリー変更
	理工学部	ROUTEプロジェクト	理工学部	1～4年	*単位は取得できないが地域交流科目では2単位相当と位置づける		

●昨年度まで地域交流科目の選択必修科目（講義科目）に登録されていた講義で、
今年度から閉講になっている講義も、修了認定をするための科目として位置づけられます。

講科目等はこちら

講義科目	全学教育科目/教養教育科目	健康スポーツ演習B	H28年度まで認定	－	－	2	
		グローバルビジネス・コミュニケーション	H29年度～科目名変更	―	－	2	※H29「グローバル化と日本人」
		環境をめぐる諸問題	H28年度まで開講	－	－	2	
		健康スポーツ演習B(木・3限)	H28年度まで開講	－	－	2	
	教育人間科学部	ノンバーバルコミュニケーション	H28年度まで認定	－	－	2	
		環境と人間	H28年度まで開講	－	－	2	
		ワークショップ・多元的共生をめざして	H23年度まで開講	―	－	2	
		ワークショップ・携帯電話と環境問題	H25年度まで開講	―	－	2	
		共生支援論A	H26年度まで開講	―	－	2	
		世代の多元性	H27年度まで開講	－	－	2	
		現代社会の読み方A	H27年度まで開講	－	－	2	
	経営学部	企業と社会	H27年度まで開講	－	－	2	

実践科目：「地域課題実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」

下記の紹介掲載欄の①～⑥の項目内容　：
①概要・目的・活動の流れ、②当PJを通じて習得してほしい知識・技術・能力、③年間スケジュール、④活動・ミーティングの頻度、⑤備考、⑥活動情報掲載サイト

モビリティ・デザインの実践

担当教員:○中村文彦,田中伸治,有吉亮,三浦詩乃（都市イノベーション研究院）
連絡先: nakamura-fumihiko-xb@ynu.ac.jp /内線 4033

①交通を中心としたまちづくりに取組む都市を対象に都市交通デザインを提案する。受講生は行政等の実務者に協力を仰ぎつつ成果を導く。都市と交通に対するプランニングマインドを備えた人材を育む実践的教育を行う。
②都市計画、都市デザイン、都市交通計画の実務では空間・経済的制約の下、事業を完遂せねばならない。既存資源を最大源活かし、まちづくりの観点からみて望ましい都市と交通のあり方を提案する能力を習得してもらう。
③原則、前-後期共通のテーマ設定を行う。1.公共交通、2.街路デザイン、3.本学COIプロジェクトを具体的テーマとし、4つの学生グループで活動する。
④指導陣と受講学生が議論・作業する時間を1限/週確保している。必要に応じ、対象地へ視察・報告会に赴く。
⑤全学部生対象。但し25人超の場合は人数調整の可能性有。
⑥交通と都市研究室HP：
http://www.cvg.ynu.ac.jp/G4/

YNU×TOYOTA/NISSANプロジェクト

担当教員：○氏川恵次（国際社会科学研究院）
連絡先：ujikawa@ynu.ac.jp / 内線 3538

①トヨタ／日産グループの超小型電気自動車やシンクロシステムを導入した電動自転車が、横浜市内の移動（日産：横浜・和田町・羽沢横浜国大駅・他市内）、神奈川県内の移動（トヨタ）にどう活用できるかを考えます。
②専門分野を問わない、交通・経済の基本的な知識に加えて、企業（日産・トヨタグループ等）・行政（横浜市等）・市民の方々の、交通による新たな付加価値の発掘、まちづくりの知見等に、広くふれていただきます。
③4月～5月　説明会、メンバー顔合わせ
5月～7月　基本テキストの講読会、フィールドワーク（初夏）
10月～1月 中間報告会、フィールドワーク（秋季）
2月　　最終報告会
④基本的には、週1コマ分に相当する時間で、講読会や、学外でのフィールドワークを実施します。
⑤交通を通じたまちづくりについて、興味関心を持っている方であれば、部局を問わず参加を歓迎します。

データで捉える地域課題・地域経済2019

担当教員：○居城琢, 岡部純一, 氏川恵次,相馬直子,池島祥文（国社）
連絡先：ishiro-taku-vr@ynu.ac.jp/ 内線 3567

①本プロジェクトは生活上で生じるさまざまな問題点を対象に，横浜市・神奈川県をフィールドとして，学生自身が調査に取り組み，住みよい地域をつくるための素材を発掘し、地域に研究成果を発信していきます。
②実際に地域の現場に飛び込むことができる学生を求めます。ただし，5人以上の参加がない場合には，グループでの活動が難しくなるため，個別研究になる場合があります。参加希望者は事前に教員と相談することをお勧めします。
③4月～5月 課題の設定にむけた検討会/6月～8月 活動/10月 中間報告会/11月～1月活動/2月 最終報告会/ 3月成果報告書の作成
④基本的には，学生自身による自主的なプロジェクト活動になりますが，横浜市職員の方々の支援を受けながら，調査を進めていくことができます．みずから課題の設定，調査，成果報告に向けた準備・活動を進める能力が養われます．

かながわ里山探検隊

担当教員：○小池治（国際社会科学研究院）
連絡先：koike-osamu-fp@ynu.ac.jp / 内線 3642

①神奈川県内の里地里山をフィールドに地域活性化の課題をさぐるプロジェクトです。現地調査では、県内各地で里地里山の保全に取り組んでいる団体のイベントに参加したり、農業体験等を行います。
②県内で里地里山の保全に取り組んでいる団体や行政の担当職員、他大学の学生との交流をつうじて地域づくりの課題や方法を学びます。フィールド調査を踏まえて持続可能な地域づくりのアイデアを考えてください。
③４～８月　草刈り、田植え、草取りなど
10月～１月　稲刈り、収穫体験、収穫祭など
2月　成果報告会
④ミーティング（学習会）は隔週。フィールドワークは週末を中心に月に１～２回程度を予定
⑤農業や環境保全に関心がある人、年間をつうじて活動に参加できる人を募集します。
⑥http://ynusatoyama.wpblog.jp/

都市の自然を楽しむライフスタイル

担当教員：○小池文人(都市科学部環境リスク共生学科)
連絡先：koike-fumito-nx@ynu.ac.jp/ 内線 4356

①都市の自然を知り、それを利用するﾗｲﾌｽﾀｲﾙを開発し、地域に普及します。そのために自然と社会を学び、自然と共生する新しいﾗｲﾌｽﾀｲﾙを考えて体験し、中高生を招待して普及します.
②都市の中に自然があることを体験的に知る. 自然のﾒｶﾆｽﾞﾑを知り管理技術・能力を得る.利用の制約となる制度や利害関係についての知識と解決する広い視野を得る. 新たなﾂｰﾘｽﾞﾑを発見し普及する.
③季節ごとのプロジェクトは以下の通りです．YNU山菜天ぷら，潮干狩り，横国でドングリを食べよう，キャンパスの里山の管理体験，都市の魚つり，その他.
④毎週木曜日の昼食時間を予定。週末を利用して年に数回の野外活動を行う。
⑤野外活動を含む．週末を利用した調査や体験も行う
学外参加者（中学，高校生など）をガイドする
⑥ http://vege1.kan.ynu.ac.jp/lifestyle/

ローカルなマテリアルのデザイン

担当教員：○志村真紀（地域実践センター）
連絡先：shimura-maki-pw@ynu.ac.jp / 内線 3579

①都市と農村・里山の間で地産地消や経済的な流れをつくりだすために、ローカルなマテリアルをデザインを通じて、ブランディングしていく活動をしていきます。今年度は昨年度から対象としている活動を引き続けながら、特に広葉樹を用いたフレグランスづくり、染色、家具のデザイン・制作等を行い、建築および都市空間に反映できる活動をしています。
②習得できる能力・技術としてはデザイン力です。
工芸、プロダクト、建築、DIY、ブランディングに関する勉強会も行いながら、上記の技術や知識を身につけることで、地域産品のブランディング開発や、ローカルなマテリアルを活かした建築設計にもつながります。
③④週に1回程度のミーティングや実践活動。
⑤ Instagram： タグ「#ローカルなマテリアルpj」で、これまでの活動の様子を紹介しています。

現代世界の課題の探索と協力の実践 ー横国ネパールプロジェクトー

担当教員：○小林誉明（国際社会科学研究院）
連絡先：kobayashi-takaaki-gv@ynu.ac.jp / 内線 3611

①本実習は、2015年に大規模な震災に見舞われたネパールに「押しかけ」、自らの目で現実を見て、感じた問題意識に基づいて「自分は何ができるのか」を模索し、関係者に働きかけながら何かを「実践してみる」ことを目的とする。目下、子どもの遊び場、スタディーツアー、女性の人身売買問題、障害のある子ども、の四つのテーマにつきグループごとに取り組んでいる。
②現実課題を乗り越えるべく、企画を考え、リソースを集めて、自らプロジェクトを形成、運営していく貴重な経験を得られる。
③④学期中は、サブグループごとに活動を実施、週一のミーティングで情報共有される。
夏期渡航（8月～9月のなかで10日ほど）
春期渡航（2月～3月のなかで10日ほど）
⑤夏休みおよび春休みのﾈﾊﾟｰﾙ渡航に参加可能な学生に限る。
⑥https://www.i-c-lab.com/nepal-top

市民活動を体験して考える 協働型まちづくりプロジェクト

担当教員：○志村真紀(地域実践センター)・高見沢実（都市イノベ）
連絡先：shimura-maki-pw@ynu.ac.jp / 内線 3579

① 横浜市には、環境保全、地域福祉、子育て・子ども青少年支援、国際協力、IT・アートによるまちづくり等をテーマとした活動をしているNPOが多くあり、その数は日本一と言われています。NPOによる市民活動の実態や課題を現場で体感する活動を軸に、横浜市内のNPOに、夏休 みに10日間以上の短期インターンか、1年間の長期インターンへ行くことを行っています。
②NPOによる市民活動の実態や課題を現場で体感する活動 を軸に、協働型まちづくりに ついて体験して考え、自らが主体的に学ぶ活動です。
③6/1:NPOとのお見合い会（出席必須）,6～7月 市民活動団体とのマッチング・研修 , 夏休み：インターン, 10/26 短期インターン報告会,1 月 報告書まとめ・提出 ,3/7 長期インターン報告会
④ミーティングの機会は必要に応じて開催します。
⑥NPOアクションポート横浜：
http://actionport-yokohama.org/npointern/index.html

シェアハウスのデザイン ー欲しいすまいを自分でつくるー

担当教員：○江口亨（都市イノベーション研究院）
連絡先：t.eguchi@ynu.ac.jp/内線：4064

①大学近辺の空き家を学生向けシェアハウスに改修することを目標に、住み手となる学生自らがデザインする実践的な演習です。安い家賃で、みんなと楽しく暮らしたい方、一緒にシェアハウスをつくりましょう！
②すまいに関するリテラシーの向上。すなわち、参考モデルの情報収集、すまいをデザインする想像力、予算や住み手の要望などの相反する要因を総合的にまとめる構想力、また、これらを説明するプレゼンテーション技術。
③４月～７月：シェアハウスに関する情報収集、見学などの勉強会/ 10月～12月：シェアハウスの設計 / 1月～３月：内装改修工事（所有者の了解が得られた場合）
④年間平均で月に２回程度。なお、10-12月は計画をまとめるため、前半より負荷が上がると想定される。
⑤２名以上の応募があった時のみ実施します。また、このPJで計画したシェアハウスに住める方が理想です。

まちに開いた交流の場のデザイン ー住宅地の価値を上げるー

担当教員：○江口亨（都市イノベーション研究院）
連絡先：t.eguchi@ynu.ac.jp/内線：4064

①野毛山公園の裏の住宅地に、二軒長屋を改修して２Fをシェアハウス、１Fを地域に開いた場にした「casaco」がある。その場の使い方を提案し、運営者の了解がえられれば提案内容を実行に移し、エリアの価値向上を目指す。
②地域に開いた場をつくるため、完全ボランティアでもなく、「稼ぐ」ビジネスを立案するのでもなく、その中間の方法を用いる。全国に広まりつつあるソーシャルビジネスの方法論の一端を、実践を通じて学んで欲しい。
③（提案内容によって変わりますが、一例を挙げます。）
4月～7月：現地視察、WSなどの運営の手伝い、企画立案
8月～9月：企画選抜 / 10月頃：事業の実施
④年間を通じて１～２回/月程度、イベント開催日は除く。
⑤２名以上の応募があった時のみ実施します。また、1年間を通じて参加できる学生を希望します。
⑥対象となるcasacoのサイト：http://casaco.jp

New - New Townプロジェクト -郊外住宅地の新しいまちづくり-

担当教員：○野原卓（都市イノベーション研究院）
連絡先：noharat@ynu.ac.jp /nohara-taku-zs@ynu.ac.jp / 内線　4065

①オールドタウン化しつつある郊外のベッドタウンを、豊かなニューニュータウンに再編するプロジェクト。まちづくり拠点「みなまきラボ」のプロと協働して、地域資源を探し、豊かな活動を提案し、実践してみる。
②地域づくり・まちづくりに、自分の専門性と幅広い視野を同時に持ちながら実践的に取り組む「アーバニスト」としての把握力、構想力、応用力を養う。また、地域や専門家、社会人との協働による実践力も習得を図る。
③春学期（4～9月）：現地見学・調査をしてヒントをつかみ、地域と協働する。秋学期（10月～2月）：郊外住宅地のまちづくりに参加し、アイデアを実践する。
④2週に1回程度（昼休み等）のミーティングと課外活動（月１度程度の外部会議および不定期のイベント参加やフィールドワーク）
⑤みなまきラボ（相鉄グループ・オンデザイン・横浜市)ほかと協働する。会合や実践に責任を持って取組み、積極的に参加すること。
⑥ http://minamakilab.yokohama/

屋台まちづくりプロジェクト -屋台で横浜のまちを変える-

担当教員：○野原卓（都市イノベーション研究院）
連絡先：noharat@ynu.ac.jp /nohara-taku-zs@ynu.ac.jp / 内線　4065

①近年、公共空間で盛んな「小さな屋台」を用いて、まちのコミュニケーションツールの可能性を探る。これまで製作した「わごん」の実績も活かしつつ、屋台の企画運営、実際の製作、これを用いた活動、まちに波及する仕組みを考える。
②屋台という小さな道具を地域に関わるツールとして用いることで、地域や周辺のニーズを捉える「把握力」、課題解決のために何をすればよいか自分で考える「構想力」、自ら動いて、興して、実現するための「実践力」の習得を図る。
③春学期：地域との会議、内部会議で屋台の案を検討する。/ 秋学期：実際に屋台の製作、屋台を使った活動を実践し、仕組みを検討する。
④月二回程度の会合、不定期での地域との打合せ・イベントへの参加等、チームで相談して参加する。
⑤人任せにしないで、地域課題に「責任」を持って取組み、会合や実践に「積極的に」参加できることを条件とする。

おおたクリエイティブタウン研究プロジェクト
-モノづくりのまちづくりを考える-

担当教員：〇野原卓（都市イノベーション研究院）
連絡先：noharat@ynu.ac.jp /nohara-taku-zs@ynu.ac.jp / 内線　4065

①自分の身の周りにあるモノはどこで誰が創っているのだろう？大田区内にあるモノづくりのまちを「価値を生むまち」とすべく、まちづくり調査・提案・実践、イベント(オープンファクトリー)参加・活動の企画運営を行う。
②「普段触れることのない職人さんや社長、まちづくりのプロと関わり、「モノづくりのまち」を間近に体感した上で、地域課題の解決方法を考える「想像力・創造力」、それを協働で実現する「実践力・実効力」の習得を目指す。
③春学期：現地見学・視察と地域活動への参加（くりらぼ多摩川の運営）/秋学期：11月頃のイベント準備と参加、まちづくり活動の実践
④週に1回程度（昼休み等）のミーティングと課外活動（月１度程度の外部会議および不定期の取材、イベント参加、フィールドワークなど）
⑤一般社団法人おおたクリエイティブタウンセンターや町工場等と協働する。地域課題に責任を持って取組み、会合や実践に積極的に参加すること。

横浜「うみみらい」プロジェクト

担当教員：〇吉田聡 , 野原卓（都市イノベ研究院),松田裕之(環境情報研究院)
連絡先：yoshida-satoshi-vx@ynu.ac.jp/内線：4249

①横浜市の「うみ」のポテンシャル、「うみ」と「まち」の関係を考えるべく、ブルーカーボンや海のエネルギー利用、環境再生、まちづくり等を踏まえた「うみみらい計画」をUDC-SEA（後述）と連携して考える。
②「うみ」という様々な環境要素とつながる対象を通して、具体的に環境および地域に対してどのようなアクションを興すことができるか、「生態系」「まちづくり」「エネルギー」などを入口に横断的に考える力をつける。
③月１回、外部組織（UDC-SEA）との会議と内部ミーティング、調査研究等を通じて、「横浜うみみらい計画」を策定する。
④月１回、外部組織（UDC-SEA）との会議、その他、2週に１度程度のミーティング、随時。地域と連携したイベント参画等。
⑤UDC-SEA（ヨコハマ海洋環境みらい都市研究会）と連携して取り組む。
⑥http://ecorisk.ynu.ac.jp/matsuda/UDCSEA/index.html

みなとまちプロジェクト

担当教員：〇志村真紀（地域実践センター）
連絡先：shimura-maki-pw@ynu.ac.jp / 内線 3579

①「みなとまち」には、みなとまちならではの地形・産業・歴史があり、共通した特徴や課題もあります。当プロジェクトでは静岡市の清水港を対象地として、清水港に関わる歴史を活かしたブランディング活動を様々に展開します。具体的にはミナトブンカサイの企画および開催を通じて、倉庫街エリアの街路や空地活用に関わるデザイン、倉庫街の空間コンテンツの事業プランの作成・提案、歴史的市街地におけるマップづくり・軒先カフェ計画、Shizuoka Teaismに関わる商品パッケージのデザイン・茶摘みを予定してます。
②みなとまちの歴史・産業・空間的特徴の修得。街路デザインや商品パッケージデザイン。各企画の企画力、推進力、マネージメント力。提案に向けた文理融合なアイデアや検討力の修得。
③④ミーティングは週に１回。土・日あるいは夏休み等に清水へ行って、ミーティングや活動をすることがあります。
⑤ 常葉大学,東京大学, 九州大学,静岡理工科大等と共同し、静岡市の行政の方々、事業者、市民の皆さんと連携し活動します。

学生公募型PJ: アグリッジプロジェクト

学生代表：山口大地（連絡先：face.kmmy@gmail.com)
担当教員：小林誉明、池島祥文（国社）

①「農業による地域活性化を「ビジネスによる経済活性化・地域コミュニティの活性化・技術開発(研究)による活性化」という3つを軸にして、多数のプレーヤーを巻き込みながら学生が主体となり多様な活動をしていく。
②関心分野や専門分野のスキル・知識を得ることはもちろん, 外部関係者と自分で交渉し巻き込む力やPDCAを回す力, プロジェクトマネジメント力など、社会人として重要な能力の習得を重視していている。
③4~5月：組織づくり・研修・既存プロジェクト始動, 6~7月：活動, 9月末：プロジェクト評価・方針修正, 10~2月：活動, 2月中旬：年度末報告
④自分で関わり方を考えながら活動していくプロジェクトベースを採用しているので、活動頻度は本人次第。
⑤農業の現場を知るために参画学生は少なくとも1度はプロジェクトが運営する畑で農作業を体験してもらう。
⑥https://www.i-c-lab.com/agridge-p-top ,
https://www.facebook.com/Agridge
https://twitter.com/face_ynu

学生公募型PJ: 和田べんプロジェクト

学生代表：菊池薫和　（連絡先：kikuchi-masakazu-rs@ynu.jp)
担当教員：高見澤 実（都市イノベーション研究院）

①大学構内で和田町の弁当を販売することを通じて大学生が和田町の味を知り、実際に和田町に足を運ぶことを促す。またゆるキャラ和田丸を用いた和田町の広報活動による地域活性化を促す。
②地域の課題や状況を客観的かつ冷静に常に分析し活動の意義を考える力。街の方々との交流を深め信頼関係を築きあげる力。
③地域イベントへの参加等を利用して和田町の課題の洗い出しを行い、課題解決のための弁当販売とゆるキャラをツールとした企画を提案・実施する。
④月に2.3回のミーティングを基本として、イベントに向けた準備や話し合いなどを別途必要に応じて行う。

学生公募型プロジェクト

地域と連携した実践的な取り組みを横浜国立大学内の学生から広く公募します。学生公募型プロジェクトを立ち上げる学生は、事前にセンターへ連絡することによって、オリエンテーションの際にプロジェクトの紹介を行うこともできます。応募に関する詳細、条件、および申請書は、下記のアドレスやQRコード先からダウンロードしてください。

■ 申請書：http://www.chiki-ct.ynu.ac.jp/database/wp-content/uploads/2019/02/gb_2.pdf（下記のQRコード）
■ 提出締切日：4月19日（金）17時まで
■ 提出：地域実践教育研究センター
経済学部1号館（N4-1棟）406室
chiki-ct@ynu.ac.jp

地域課題実習を履修・参画するみなさんへ：
・実習時の怪我や事故の万が一の可能性を考慮して、入学時に学生教育研究災害傷害保険か生協学生総合共済（生命共済）等の保険に加入していない学生は、保険に加入してください。

各プロジェクトの昨年度までの活動内容は、
地域実践教育研究センターのHPのサイト、
あるいは 右のQRコード先に掲載されています。
http://www.chiki-ct.ynu.ac.jp

実践科目　※ 地域課題実習以外で実践科目として位置づけている「授業」・「プロジェクト」

下記の紹介掲載欄の①～⑥の項目内容　：
①授業・プロジェクトの目的、②履修・到達目標、③授業計画、④授業・プロジェクトの方法・進め方、⑤備考、⑥活動情報掲載サイト

実践地域と起業

担当教員：〇林田 昌也 , 井出 美由樹 （成長戦略センター）
時間割コード:9101059 / 開講時期 ：春学期 /開講：全学教育・教養教育

①高齢化や過疎化、伝統産業の衰退など多くの課題を抱える地方において、フィールドワークとグループディスカッションによって課題の本質を理解し、企業（事業、社会）という手段によって解決を図るアプローチとプロセスを習得する。本授業は横浜国立大学が連携協定を締結している南足柄市、富士ゼロックス社と協力し開講する。
②南足柄市の地域としての課題が把握され、企業という手段を用いて課題を解決するプランづくりができている。
③8月7～9日（予定）に南足柄市内で合宿を行う。
④現地での合宿授業のため定員を20名とする。20名を5名ずつのグループに分け、フィールドワーク・プラン作りの実習を行い、プレゼンテーションを行う。
⑤4月12日（金）12:15よりオリエンテーション（中央図書館メディアホール）を行うので、履修希望者は必ず参加のこと。希望者が定員を超える場合は抽選を行う。

学外活動・学外学習 I

担当教員：島田 広 （教育学部)
時間割コード: 7091007/ 開講時期 ：春学期 /開講：教育学部

①②自らの意志でボランティア活動に参加し、社会貢献の意義に気づくとともに、その結果を学内での教育研究活動に生かすことを目的とする。この授業では、地方公共団体や非営利目的諸団体等、社会全般におけるボランティア活動を対象とするものである。
③1.オリエンテーション, 2~3. 各自のテーマならびに活動先の探索活動, 4.中間報告会, 5~13.決定したテーマによる活動の実施, 14.活動の総括, 15.最終活動報告会
④４月中旬に実施されるオリエンテーションに続き、社会全般で広く行われているボランティア活動を実際に行う。主として学外で行われる活動・学習に対して、一定の要件を満たすものを各自が探すとともに実際に活動を行い、その結果を発表し質疑応答する。
⑤中間報告会への出席とボランティア活動団体による活動評価、レポートおよび活動報告会の結果により評価する。
⑥ https://ynugakugaikatudou.jimdo.com/

ROUTEプロジェクト

担当教員：理工学部 教員
*単位は取得できないが地域交流科目では2単位相当と位置づける.

①ROUTEとはResearch Opportunities for UndergraduaTEsの大文字をならべたもので、学部学生のみなさんが理工学の最先端の研究に参加できるプロジェクトです。
②参加するみなさんが早い段階から研究の面白さを知ると共に、とかく受け身になりがちな講義にもより一層興味を持って積極的に取り組めるようになることを期待しています。
③ROUTEウェブサイトのProject Listから興味のあるプロジェクトを選択し、申込み締切日までにプロジェクトを担当する教員に参加申込みのメールを送ってください。学年、学籍番号、氏名、面接が可能な日時を「複数」記載してください。面接等をふまえて選抜結果は指導教員より個別に連絡します。
④担当教員の研究指導のもと研究プロジェクトを遂行します。年度末には合同の成果発表会が行われます。
⑥ http://es-route.ynu.ac.jp/

「修了者」からのメッセージ

村本真菜
Mana MURAMOTO

教育人間科学部 マルチメディア文化課程 卒業
現在、名古屋鉄道株式会社

地域交流コア科目：　地域連携と都市再生A・B
選択必修科目：　ワークショップ「多元的共生をめざして」
建築の環境と防災、共生支援論A
地域課題実習：　公共空間の活用とにぎわいづくりPJ

地域交流科目を受講する事で、まちづくりやＮＰＯで活躍していらっしゃる外部の方と交流し、実践的な考えを知る機会を得ることが出来ました。講義で学んだ事を生かし、私は3年間、和田町商店街で賑わいづくりの活動に取り組みました。商店街や地域の住民の方々と共に和田町を盛り上げていく中で、人と人との繋がりの大切さを再確認し、身近な地域に対し自分がどのように関わっていくべきかを考える事が出来るようになりました。

足立喜一朗
Kiichirou ADACHI

経済学部 国際経済学科　卒業
現在、横浜市役所

地域交流コア科目：　地域連携と都市再生A・B
選択必修科目：　地方財政
地域課題実習：地域から水と大気を考えるエコプロジェクト

神奈川の自然はどうなっているのか。環境政策は何が行われているのか。地域を限定した身近なテーマ設定により、普通の授業では得られない臨場感を味わいました。実際に行ってみないと分からないことばかりで、新しいことを学ぶたびに人のつながりが増え、広い視野を持つことができました。地球規模の環境や経済も、地域で人が影響しあうことから始まると身をもって感じました。これからも「グローカル」を心がけようと思います。

市木晶子
Akiko ICHIKI

経営学部 会計・情報学科　卒業
現在、ソニー株式会社

地域交流コア科目：　地域連携と都市再生A・B
選択必修科目：　建築の環境と防災,環境をめぐる諸問題,企業環境システム論
地域課題実習：　エコの芽を育てるプロジェクト

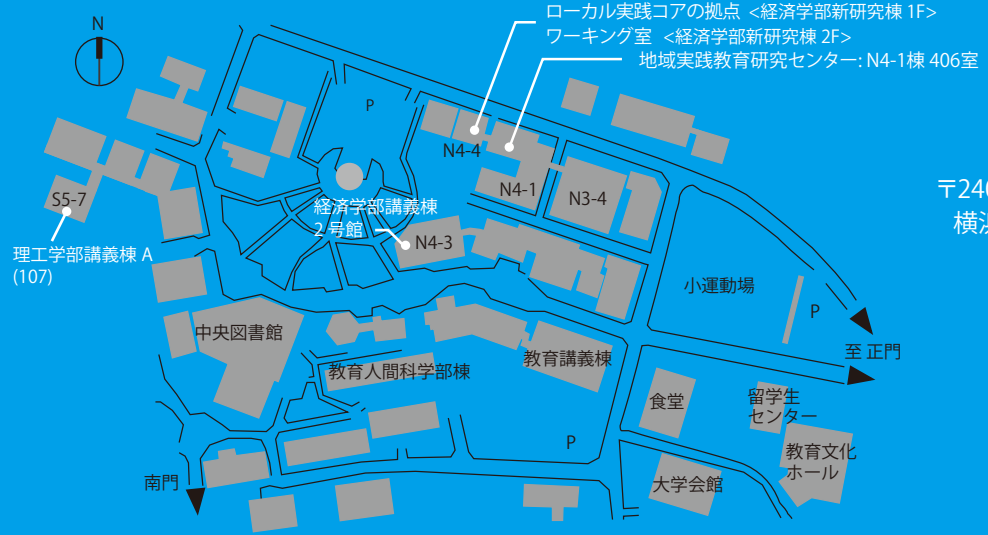
私は「エコの芽を育てるプロジェクト」に参画しました。1年目は上級生と私の4名でしたが、2年目は同学年の学生が加わり8名になりました。地域課題実習では学内から外に出て、地域の方に厳しくも温かいご指導を頂く機会もあります。自ら課題を設定し、積極的に動くことを通じて、沢山のものを得ることができます。年度末には成果発表の機会があるので、自分のしたことをしっかりとプレゼンテーションできる能力を高めて下さい。

小竹 杏奈
Anna ODAKE

理工学部 海洋空間のシステムデザインEP
現在、東京都庁

地域交流コア科目：　地域連携と都市再生A・B
選択必修科目：　建築・地域環境計画Ⅰ,
現代の物流経営
地域課題実習：　おおたクリエイティブタウン研究PJ
ガラスシティPJ,水辺と共生するデザインPJ

在学中の4年間、毎年違うプロジェクトに参加してきました。自身の専攻以外の先生方の下で、学部も学年も違うメンバー、時には外部の方と一緒に興味ある分野について課題を考え、試行錯誤しながら解決にむけて活動していくのは本当に新鮮で、年度の終わりには毎年ものすごい達成感がありました。
自分の興味に合わせて幅広く勉強、活動できる機会や環境はなかなかありません。ぜひ地域にたくさん関わってみてください。



■ 問合せ・連絡先：
地域実践教育研究センター

〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台79-3
横浜国立大学　経済学部1号館 406号室
TEL&FAX : 045-339-3579
chiki-ct@ynu.ac.jp
http://www.chiki-ct.ynu.ac.jp